

伊方原発運転差止 仮処分取り消し

広島高裁

2018年9月25日

伊方原発雨天差止仮処分の異議審で、広島高裁（三木昌之裁判長、富田美奈裁判官、長丈博裁判官）が四国電力の異議を認めて運転差止の仮処分決定を取り消しました。全国紙の社説の扱いを見てみましょう。

伊方稼働の容認 合理的判断を定着させよ

9月27日主張

社会通念に照らして極めて合理的な決定だった。

東京電力の福島第1原発事故以降、原発の災害リスクをめぐる訴訟が相次いでいる。規制委が定めた新規制基準に合格しても各地の裁判所が原発の安全性を個別に判断する動きには首をかしげる。とくに仮処分は限られた時間と証拠で審理され、どこまで専門的な知見に基づいて判断されたか、疑問が大きい。泊原発の長期停止中に北海道では全域停電が起きた。原発を使わないリスクについても厳しく認識し、安全性を確認した原発の再稼働は政府が主導すべきである。

156万部
2017年1月～6月平均
(参考資料1)

伊方原発異議審 常識的判断で稼働を認めた

9月26日社説

常識を踏まえた判断である。ゼロリスクに固執した仮処分決定を覆したのは当然だろう。

九州など広い範囲を壊滅させる破局的噴火の発生頻度は著しく低い。このような事態を想定した規制や防災対策は、そもそも存在しない。異議審決定も、「国民の大多数は格別問題にしていない」と結論付けている。原則40年とされる運転期間中に破局的噴火が起きる確率を考えれば、至極まっとうな判断だ。

原発の再稼働を阻む手段として、仮処分申請が乱用されている感は否めない。原発を基幹電源とする電力会社にとって、司法リスクの拡大は軽視できない。

836万部
2018年8月
(参考資料2)

参考資料
①産経新聞メディアデータ
<http://www.sankei-ad-info.com/data/>
②読売新聞メディアデータ
<http://advyomiuri.com/mediadata/>

③日経新聞メディアデータ
<https://adweb.nikkei.co.jp/paper/index.html#paper02>
④毎日新聞の配布エリアと販売部数
<http://macs.mainichi.co.jp/now/media01/index.html>
⑤朝日新聞媒体資料DATA FILE 2017-18
https://adv.asahi.com/ad_info/media_kit/11183349.html

大規模噴火が起きるのは1万年に1回程度とされ、
原発に限らず防災対策全般で想定していない。

「発生可能性や切迫性を示す相応の根拠がない限り、
想定しなくてよい」とした今回の高裁や地裁の決定は、
司法として一定の判断基準を示したもので、評価できる。

242万部

2018年7月
(参考資料③)

遠くの火山で中小規模の噴火が起きても大量の火山灰が降り、
非常用発電機などが機能しなくなる恐れがある。
電力会社や規制委は最新の科学的知見を集め、
安全対策を絶えず見直す必要がある。

国が破局的噴火のような災害に具体的対策を取っておらず、
国民の大多数も格別に問題視していないとも言及して、
破局的噴火が起きるリスクを火山ガイドの適用範囲から除外。
立地に問題ないと判断した。

だが、司法には国民一般が問題視していないリスクに
警鐘を鳴らす役割もあるはずだ。

破局的噴火のような巨大なリスクをどう評価するかについては、
今回の広島高裁同様、判断が分かれているのが実情だ。
さらなる議論が必要だろう。

302万部

2017年1月～6月平均
(参考資料④)

あいまいさを伴う**社会通念**を前面に出した司法判断には
疑問が残る。

放射能に汚染された地域への立ち入りが厳しく制限される
原発事故の深刻さは、福島事故が示す通りだ。

原発を巡る「**社会通念**」とは何か、議論を尽くす必要がある。

593万部

2018年1月～6月平均
(参考資料⑤)

火山噴火が懸念される原発は伊方に限らず、
九州電力の川内原発（鹿児島県）など各地にある。
国民的な議論の先陣を切ることを規制委に期待する。

最後に一言

私が小さい頃、電車には灰皿があり、子供が見るようなテレビでもみんなタバコを吸ってました。
当時の「社会通念」ではそれがOKだったということです。今同じことをやったら？

そして70年ちよい前、天皇は現人神で、天皇のために命をも捨てるのが「社会通念」でした。

「社会通念」言い換えれば「みんなそう思ってること」。そんなもんコロコロ変わります。

人の行動について判断するのに「今のみんなはそれはやっちゃいけないと思ってる」というのは使
えるかもしれませんが、噴火や原発の安全性のようなものに「みんな大丈夫だと思ってる」なんて
通用しません。

具体的な事実を積み重ねて判断しないと取り返しがつかないことになってしまいます。